



ブルームバーグ米大統領選出馬表明

ブルームバーグと中国国際経済交流センターはダボス会議に対抗する New Economy Forum を11月20日から22日の間北京で開催した。

ヘンリー・キッシンジャーが名誉議長、ヘンリー・ポールソン(元米財務長官)と中国側の曾培炎が共同議長であった。

キッシンジャー氏は一昨年10月にお目にかかった時は車椅子であったが今回は杖をついて歩いていたので元気になられたようだ。

世界の指導者が集まった今回の会議で米中双方の大物の発言があったが、要はトランプの米中貿易戦争に切りを付け、「米中戦略的パートナーシップ」を目指すべきだと言うことに尽きる。

1972年のニクソン・キッシンジャー対毛沢東・周恩来会談で決めた将来の米中の指針を踏襲しようとしている点に変わりはない。

ブルームバーグ氏は中国からの帰国後の11月24日民主党から大統領選に出馬することを正式に表明した。

トランプを大統領に決めたキッシンジャーとロスチャイルド資本の番頭役のポールソンがブルームバーグを次期米大統領にすることを北京の場から世界に示した直後の出馬表明である。

トランプは強引にアメリカの指針を打ち出し、世界を混乱に陥れているが、一定の成果が挙がってきているので2021年からはアメリカの気品を取り戻し、相互理解の上で世界を新秩序に誘導することになる。

ブルームバーグ氏は2002年から2013年までニューヨーク市長を3期務めたが歳費の受給を辞退、チャリティー文化教育関係に多大な寄付をするなど寄付総額ランキングではトップ格である。

合法的詐欺と恐喝で不動産王になったトランプとは全くの別人である。

トランプの任務は現行金融システム破壊と国際協調関係からの離脱である。

新しい秩序を構築する前に世界とのつながりを絶って現行秩序を破壊する必要がある。

Scrap and Build(破壊して建設する)の「壊し」がトランプで、「建設」がブルームバーグである。

前述のニクソン・キッシンジャー訪中(1972年)後、米中国交正常化は1979年まで掛かったが、その間田中角栄首相が1972年の米首脳訪中を追いかけ訪中、あっという間に日中国交正常化を果たした。

日本に邪魔をされたキッシンジャーは田中を「ジャップ」と罵った経緯がある。

国交正常化を日本に先を越された為、米中国交正常化交渉で中国が有利になったことは言うまでもない。

今日の日本に田中角栄はいないのだろうか。

小冊子 Vo.112 の投稿が遅れているのは次期ブルームバーグ政権での入閣者とコンタクトしているからである。

★「時事直言」協賛金受付中！ご協力者全員へ特別レポート贈呈！

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスタ U.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX：03-3956-1313) までお知らせ下さい。